

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0873100648		
法人名	医療法人社団 正信会		
事業所名	グループホームたんぼぼ	ユニット名(東館)	
所在地	茨城県小美玉市橋場美20-1		
自己評価作成日	令和 4年 10月 10日	評価結果市町村受理日	令和5年4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0873100648-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階
訪問調査日	令和5年1月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナウイルスにより自粛生活の今、外出出来ず、家族との面会も窓越し状態です。利用者様が孤独、ストレスに感じない様レクリエーションや傾聴の時間などを多く設け出来る所はお手伝いして頂きながら毎日家庭的な雰囲気でご過ごしています。事業所の近くに母体の病院があり緊急時にはすぐに駆けつける対応ができ医療的な面で安心して生活できます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所を運営する母体は医療機関であることで、コロナ感染状況に応じて実施する月2回の訪問診療や週1回の朝の回診とともに、定期的な受診や検査、週1回の母体の看護師による健康管理、緊急時には24時間搬送可能な体制で利用者が安心して暮らせるほか、家族等や職員の安心に繋がっている。管理者は利用者の得意とする家庭菜園や掃除、洗濯物干しなど役割を持った生活で残存能力の維持と生き甲斐に繋げている。また職員の研修や話し合いは全職員が揃う日と決め、職員一人ひとりの意見や提案ができる平等性のある配慮に努めている。食事は外部業者による献立の食材が届き温めて提供しているがどの料理も味が同じになってしまうとの事で週2回は買い物から調理まで職員による利用者好みの手料理を提供して食事が利用者の楽しみとなるように職員は努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域との交流を大切に家庭的な雰囲気の中で入居者一人ひとりの個別性を尊重し安らぎのある日常生活を支援します」という理念があり、心構えとしてやさしく、しんせつ、ていねいに守った対応を心がけている。	ホール、事務室の見やすい所に掲示して確認できるようにし、朝礼の時に理念に沿った支援ができていないか再確認している。事業所理念にある「家庭的な雰囲気を大切に」を意識し、家庭的な雰囲気が出るように季節の野菜を畑で作り食材に取り入れている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今はコロナウイルスの影響で自粛している。	現在はコロナ禍で自粛しているが、同法人の施設と合同で夏祭りなどを開催し、近隣住民と交流をしていた。近隣住民からは今も野菜や果物の差し入れがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員は常に認知症について理解しており、推進委員会を行なうことで地域、家族、民生委員と共に認知症高齢者の支援について書面にて話し合う機会を設ける努力をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在はコロナウイルス感染症の為自粛生活を行なっている為、運営推進委員会は書面での対応となっている。この機会に職員間での内部研修やコロナウイルスに対しての対応を話し合う機会を設けている。	現在は書面開催としており、事業所からの報告のみとなっている。家族等からは感謝の言葉、他委員からは特に連絡はなく、運営に反映できる意見を得るまでには至っていない。	事業所で困っている事やコロナ禍での利用者への支援方法などの課題を事前に委員達に聞くなどの工夫を取り入れ、運営に反映した意見が得られる活発な会議となることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者や地域包括との情報交換や相談連絡など日頃から協力的な体制の構築に努めている。	生活保護受給者へ担当者の訪問が年1回あり、職員が現状報告や情報交換している。また、書類申請時には訪問し、分からないことがあれば相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については内部研修を行い再確認し共有をし支援している。やむを得ず身体拘束を行なう場合にはご家族様に必要性などを十分に説明した上で書面にて同意を得るようにする。経過観察、再検討記録を用いて拘束ゼロを目指す。DVDで意見を話し合う	管理者は居間兼食堂の壁に、言葉による暴力や言い方などの詳細な文章を掲示しながら、利用者が不愉快にならないように職員への周知を図っているとともに、年1回内部研修を行って身体拘束をしないケアに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についてはマニュアルを設置しており参考にしている。職員は常に利用者の人権及び尊厳を守り介護に努めている。特に言葉の暴力には気をつけて対応している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の必要性を管理者と話し合い、利用者の人権を脅かさないように日々の介護に活かし支援している。また市の担当者との連携を図り日頃から情報交換をするなどしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書、重要事項説明書、料金表等で理解をいただくまで十分な説明を行い契約解除の際は利用者、家族の不安や疑問など聞いた上で十分な説明を行い納得いただける様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情、意見箱の設置窓口を設け説明書の明記をしている。面会時や日々の会話にてご家族、利用者の意見や要望を聞きサービスが快く受けられる様に配慮している。	面会時には必ず声をかけを行い、意見や要望、困りごとはないかなど聴くように努めている。意見や要望が出た際には職員間で時間を取って話し合いをするほか、本部と相談するなどして運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の意見や要望を聞き、また適切なものは介護に反映出来る様対応している。	週1回の朝礼や全員出勤時に行事等の話し合いを行っている。外注の食材だけでは季節感がないため、手作りの方が良いと意見があり、週2回手作りの食事を提供している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営母体での月一度の定例会議において意見や要望等を話し合う機会があり、職員待遇への反映や向上心を持って働けるよう配慮、対応に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は研修に参加出来る環境にあるが今はコロナウイルスの為研修に参加はしていない。その為ミーティングでマニュアルを基に全員で研修、講習を行なう様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今は外部との交流を設ける機会がないが、コロナウイルスが終息した際には勉強会や訪問を通してサービスの質の向上に取り組みたい。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望や不安などを傾聴し安心して暮らせる様に努めている。また利用者の要望を把握し個別支援計画を作成している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の契約は時間を多く設け丁寧に説明している。家族からの要望、困り事などをよく聞き何かあれば気軽に話してもらえる雰囲気作りを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族がまず必要としている支援を見極める事が出来る様に話し合い、傾聴に重点を置いている。現在は本人の要望によりマッサージを利用している方もいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人と苦楽を共にし、一緒に暮らし支え合いながら関係を深めていける様支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族との絆を大切にしながら、気軽に面会に来てもらえる様働きかけをしている。現在はなかなか面会も出来ないが希望があれば玄関にて硝子越しではあるが面会が可能となっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話の取次ぎや友人達との今までの関係が途切れないように支援している。	フェイスシートを作成し、電話の取次ぎや手紙のやりとりなどを行い、これまでの関係が途切れないよう支援している。家族等との外出や外泊などは現在コロナ禍で中止している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合った人同士、一人ひとりが孤立せず所々に長椅子を置き話しやすい環境を作っている。職員も気軽に声かけでき相談できる場所作りとなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時も今までと変わらず電話や近くに来た際は立ち寄ってもらえるような関係作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向や希望に添える様に努めている。利用者の方が外で草むしりや掃除をしたいと希望されれば道具を用意し行なって頂いている。困難な場合でも出来るだけ本人の意向に添える様に検討している。	現在、意志疎通が困難な方はいないため利用者に確認しながら把握している。一人ひとりが役割を持って生活できるよう支援している。野菜作りが得意な方は野菜作りを職員と行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしぶりや生活環境、サービス利用など家族、本人、情報提供書等から情報を収集し把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり一日の過ごし方や性格、病状などの違いがあり、また心身状態は日々変化があるので少しの変化も見逃さない様に利用者様の観察に徹している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題とケアのあり方について本人、家族、管理者、ケアマネジャーと話し合い意見交換し、それを職員でアセスメント、カンファレンスし本人がより良く暮らせる様な介護計画を作成している。	毎月モニタリングを行い、基本半年で見直しを行っている。コロナ禍で事前に電話連絡を入れながら家族には郵送し返送してもらう仕組みを導入しているが、この1年間は返却率が低く、無署名、無捺印の介護計画書となっている状態である。	介護計画書作成は利用者や家族等からの署名や捺印などを得ての支援をすることとなっているので、早急に書類の整備が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づいた事などをケース記録に記入し職員間で情報を共有しながら実践や計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望や訴えをよく聞き、必要に応じて支援やサービスの機能改善に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方々や小中高生、ボランティアの方々のお手伝いをお願いし協力しながら安全でその人らしい穏やかな生活が出来る様支援しているが、今年はコロナウイルスの影響で来訪は遠慮して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切に今まで同様のかかりつけ医の受診が受けられる様支援している。	契約時にこれまでのかかりつけ医への受診が可能であることを伝えている。協力医療機関の外来受診が定期的にある。バイタルや日々の様子を書面にして記載し家族等から医師に渡してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で情報や気づき、状態の変化など外来受診時や訪問看護師に伝え相談している。利用者の方が適切な受診や看護を受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体病院との情報交換、連絡を密にとり安心して治療が受けられる様病院側との関係作りを行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約の際、家族の方に説明し訪問看護師も交え十分な話し合いを行なっている	看取りは行わない事業所であることを契約時に伝え同意書を得ている。重度化マニュアルの作成と職員研修を行うまでには至っていない。	重度化マニュアルの作成と職員研修を行うことを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルが各棟に提示しており、職員は日頃から意識し緊急時にはマニュアルに従い対応出来る様定期的に訓練を行い実践力の向上に努め勉強会を設けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の消防訓練を実施している(夜間体制・地震災害訓練)。近隣住民の避難訓練への参加を検討中です。	夜間想定を含む避難訓練を行っている。訓練後は反省会を行い、課題について話し合っている。コロナ禍前は訓練時に近隣住民が見学に来ており、非常時には協力をお願いできる関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を傷つけない言葉かけに気を付けて対応している。職員間で常に確認し合うよう努めている。	管理者は利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに配慮するようにと日々職員に伝えている。年1回、接遇に関する研修を実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望を尊重している。自分で決める事の出来ない利用者の方は動作や表情から察知し希望に添える様に心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの特徴を把握し、本人の嫌がる事は無理強いせずに、本人のペースを大切にしながら支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月一回床屋、美容師が入り整容している。ヘアースタイルも洋服も好みの物となり、おしゃれを楽しめる様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前の準備や片付け、テーブル拭き等出来る事を一緒に行なっている。	食事は外部業者による献立の食材が届き温めて提供しているが、どの料理も味が同じになってしまうとの事で、週2回は買い物から調理まで職員による利用者好みの手料理を提供して食事が利用者の楽しみとなるように職員は努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士がカロリー計算をして、バランスの良い献立を作成してくれている。それを基に職員が食事作りを行なっている。食事の摂取量を毎日記録に残し、健康状態を把握出来る様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前後のうがい歯磨きを行なっています。出来ない方への声かけや介助にて対応。希望があれば訪問歯科診療受診を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、落ち着かない様子の時は声かけにてトイレ誘導を行っている。出来るだけトイレでの排泄を心がけている。	利用者一人ひとりに合う声掛けをしてトイレ誘導をし、できるだけトイレでの排泄を支援することで全利用者リハビリパンツを維持している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を使用し毎日の排便を確認している。状態に応じ水分補給や軽い運動で自然排便が出来る様に心がけている。場合によっては下剤を使用する事もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には週二回となっているが、順番や入浴については出来る限り利用者の希望、要望を聞くように努めている。入浴拒否の場合は無理強いせず、時間をずらして声かけしている。	柚子湯や菖蒲湯で季節感を味わっている。時折、入浴剤を使用し、気分転換で温泉気分を味わっている。2ユニットで入浴日が異なり意向があれば対応可能となっている。入浴の順番が公平になるように、毎日入浴する順番を利用者も把握できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は利用者の希望や体調に合わせて休息できる環境整備をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の内容は個人のケース記録に保管し薬の内容、副作用等が把握出来る様に努力している。服薬までは二名の職員でのダブルチェックをする体制を取ることで誤薬に十分注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみやテーブル拭きなど個々の能力に合わせて、その方のやりがい継続出来る様役割を持って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族が面会に来た際は一緒に外出したり、天気の良い日は散歩、4月には花見と例年なら支援してきたが今年はコロナウイルスの影響で外出は控えて頂いている。	コロナ禍で外出支援ができないため、天気の良い日には事業所周辺の散歩や玄関前の駐車場でテーブルと椅子を設置して昼食やお茶のみをするなどの日光浴や気分転換を図っている。事業所の庭で利用者と職員で家庭菜園をしながら、作物の生育を楽しみながら、食材にも活用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方が家族に管理して頂いている。個人の希望や能力に合わせて、お金を管理して頂いている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人への手紙の投函や各棟の固定電話の取りつぎ、電話をかけるときの支援も行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな窓から見える景色はジャガイモ畑が広がり、花が咲く時期や収穫時期にはジャガイモの話題になったりと季節の変化を感じられる。	職員と利用者とで掃除をして清潔に保たれているホールにはテレビを見ながら寛げるソファが置かれ、小上がりの和室では利用者が洗濯物をたたんだり話をしながら寛げるようになっている。ウッドデッキがあり外気にあたるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファを設置し気の合った利用者同士で座れる場所を作っている。自由に過ごせる時間や居場所作りの工夫に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で慣れ親しんだ思い出の品等を家から持ってきていただいています。家族の写真を飾ったりそれぞれの方に合った居室作りを行なっている。	管理者は利用者や家族等に今まで慣れ親しんだ物品を持ち込んで欲しいと伝えている。居室入口に手書きの表札とそれぞれ違った飾りが飾られている。掃き出し窓になっておりベランダに出られる作りになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来る事を理解、その人の力に応じた行動を見守り安全に過ごせる様工夫している(洗濯を干す、畳む。テーブル拭き、モップ掛け。ゴミ出し、草取り等)。		

(別紙4(2))

目標達成計画

グループホームたんぽぽ
作成日 令和 5年 4月 17日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	介護計画書作成は利用者や家族等からの署名や捺印などを得ての支援をする事になっているので、至急に書類の整備が望まれる。	連絡を密にしっかり行なっています	利用者様のご家族にどのようなサービスを提供できるのかを提案、説明し介護スタッフと連携し実践していく。	4ヶ月
2	33	重度マニュアルの作成と職員研修を行なうことを期待する	多職種と連携して重度化マニュアルを作成する。マニュアルを使用し、症状の合わせ敏速に対応できる様なスキルをみにつける	主治医との連携や、訪問看護師を交えて重度化マニュアルを作成し施設内研修を開催する	4ヶ月
3	4	事務所で困っている事やコロナ禍での利用への支援方法などの課題を事前に委員達に聞くなどの工夫を取り入れ、運営に反映した意見が得られ活発な会議となる事を期待する。	施設内で意見の相違も多々あり解決が出来ない事もある。そのままにせず支援方法を探りたい。	運営推進委員の方、市役所の方などに施設内での課題を提起して意見をいただき職員全体で意見を出し合い話しあう。	4ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。